

活動実施計画書

団体名： 星崎学区連絡協議会

1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

C-1（防災・減災）、F-3（都市魅力）

2 活動地域の特性、現況、課題

- ◆ 笠寺台地の南に位置し、天白川の氾濫平野、砂洲で構成され、大部分が海拔 1m 前後の地区で、河川氾濫、高潮のリスクが高く、伊勢湾台風（1959）、東海豪雨（2000）など、これまで度重なる浸水被害に見舞われている。
- ◆ また、住民の高齢化の進展（25.6%）、町内会推計加入率（58.7%）の低下により、コミュニティの希薄化と併せ、災害発生時の避難行動の困難性が増加し、地域ぐるみで安全確実な避難等の防災行動等の支援体制の構築が喫緊の課題である。
- ◆ 地域のあらゆる主体が連携できる体制が十分でなく、互いに顔の見える関係構築のための“場”がない。

3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

- ◆ 地域活性化と防災力向上を目指して、防火防犯パトロール、運動会、地区清掃などに併せた、防災教室を実施しているほか、例大祭における伝統まつり（猩々）、e コミマップ、ラジオドラマコンテストなど地域活性化に取り組んできた。
- ◆ 2011 年東日本大震災の甚大な被害を目の当たりにして、自助、共助の重要性の観点に立ち、地域の地震防災対策を進めるために、名古屋市で最初に「星崎学区地区防災計画（地震対策編）」を作成（2017）した。
- ◆ 令和 6 年度に、防災で楽しく学ぶ場として町内会加入に関係なく多くの住民が参加できる形で防災フェスティバルを実施するとともに、中学校と区役所、地域が一緒に考える「防災の輪未来プロジェクト」が開催され、中学生と地域の接点生まれ、今後の展開が期待できる。
- ◆ 防災を切り口にした「まちづくり構想」作成に向けて継続して検討を行っている。

4 助成を受けようとする活動の目的

- ◆ 地域の皆が関わって策定する「まちづくり構想」を実効あるものとし、持続性のあるものとするためには、構想に基づいたまちづくりを担う人材の育成が不可欠である。
- ◆ 我々が目指すまちの姿は、地域を構成する住民、事業所、各種団体に加え、小中学生など若い世代も含め、あらゆる主体が、ともに学び、ともに考えるようなことを進めていくことが重要と考え、そのための“場づくり”に重点を置いた取組みに力を注いでいきたい。
- ◆ これらの主体をつなげていくためには、それぞれの共通課題である『防災』を切り口に、ともに集い、ともに考えていくことが効果的であることから、そのことを主眼にした活動に係る助成を必要とする。

5 活動による今年度の成果目標

- ◆ 私たちの目指すまちは、ハコではなく『人が地域を作る』という理念のもと、地域のあらゆる主体をつなぐ取組みとして、地域のコアメンバーが中心となり、世代や業態を問わず生き活きと、そして、明るく、ときに優しく見守ることができる『地域交流の場』をつくることである。
- ◆ この場を通じて、若い担い手を育て、育んでいける『人を育てる まちづくり』のきっかけができれば、災害時にも必ず生き延び、生活を継続できる星崎に近づいていくと考える。
- ◆ そのために、昨年大きな成果を挙げた住民同士のつながりを生み出す防災フェスティバルに、全員参加型の取組みとして「わが家の防災自慢（仮称）」を加え各家庭の防災の取組みを促進させる意識啓発を行う。
- ◆ 災害時に命や健康のリスクが高い要配慮者の支援を進めるために、民生委員と自主防災会が連携して支援計画をつくり上げる名古屋市でも例のない取組みを始め、災害関連死の予防のほか健康リスクにも備えることができる「避難所・健康マニュアル（仮称）」の作成を行う。
- ◆ こうした取組みを通じ、現在、作成中の「まちづくり構想」の実効性の検証も行いながら、当該「まちづくり構想」を作成し、それを基本方針とした「星崎学区地区防災計画（風水害編）」として取りまとめる。

6 助成を受けようとする今年度の活動内容

- ◆ 地域の主体をつなぐ“場づくり”として、地域の事業所を招いて、住民、特に中学生に対する事業活動における防災への取組みを題材とした交流会を開催し、会社紹介のほか地域防災への関わりについて意見交換することで、地域主体同士で将来のまちづくりについてともに考える場としての可能性を探る。
- ◆ 地域（学区）の住民等が楽しみながら防災を学ぶとともに、地域の住民同士が気軽に触れ合える機会（防災フェスティバル）の充実を図るほか、地域の歴史、土地の成立など歩いて回る「歴史・ぼうさいまち歩きラリー」を実施する。
- ◆ 要配慮者を日頃から見守れる環境をつくるため、昨年度実施した WS において出された日頃のつながりの強化方法について検討し、災害時に様々な支援を必要とする方々に対する支援体制の構築に向けた議論を加速する。
- ◆ 「まちづくり構想（案）」の実効性を高めるための上記活動の検証を行い、より具体的な行動要領としてまとめることで「星崎学区地区防災計画（風水害編）」の素案を策定する。

7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

- ◆ 有識者(三重大学大学院 川口 淳教授)
- ◆ 支援者(名古屋大学 あいち・なごや強靱化共創センター)
- ◆ 行政（南区役所、南消防署、星崎消防団、南社会福祉協議会）
- ◆ 町内会、民生・児童委員
- ◆ 地域内事業所等

8 今年度の活動内容のスケジュール

月	活動内容	詳 細
4		
5	地区防災計画策定WS	令和6年度の取組みを踏まえ地区防災計画の骨子(案)をもとに、計画の肉付けに必要な事項及び具体的な方策を検討する (～1月頃：7月、9月、11月、1月の5回開催)
6	防災安心まちづくり年間活動キックオフ 各自主防災会現地訓練	1年間の取組みの主眼である「避難所環境の改善」に着手する起点とする(～3月頃：8月、10月、12月の4回開催) - 自主防災会ごとに要配慮者の支援に焦点を当てた訓練の実施(～11月)
7	民生・自主防合同勉強会(第1回) 地域の主体をつなぐ場づくり(第1回)	- 要配慮者の効果的な支援のあり方・連携について検討する - 地域の事業所と中学生を主体とし、事業所の概要や防災の取組みに関する情報交流会
8	歴史防災まち歩きラリー 地域の主体をつなぐ場づくり(第2回)	- 地域の歴史と成り立ちについてクイズ形式で歩きながら学ぶ自由参加型の防災学習(～2か月間) - 地域の事業所と中学生を主体とし、事業所の概要や防災の取組みに関する情報交流会
9		
10	民生・自主防合同勉強会(第2回) 防災フェスティバル	- 独自の“助け合いの仕組みづくり”を効果的に実施するために、互いの役割について認識し、平時からも含め連携のあり方について検討する - 防災を切り口とした気軽に集まる場づくりによる楽しみながら、新しい地域のつながりを生み出す競技形式のイベントを行う
11	地区防災計画(素案)の策定	有識者を招き地区防災計画(素案)の骨格を確定させ、市防災会議への提案準備に入る
12	学区防災訓練	年間を通じて実施、作成を進めてきた要配慮者の支援計画の検証として、声掛けから避難行動までを訓練を行い、その実効性について確認、必要に応じて修正を行う
1	地区防災計画の策定	地区防災計画(風水害編)の成案
2		
3		

注 その他毎月中心となるメンバーによる「コア会議」を開催

9 （構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと以後の展望

- ◆ 地域の事業所と中学生を含む地域住民という若い世代による新しい協働体制が機能すると、これまでとは異なる次元での「まちづくり構想」が生まれることが期待できる。また、そのことが事業所にとっても積極的に地域活動に関わるインセンティブにつながっていくことを想定する。
- ◆ 昨年度、多くの参加を得た『防災フェスティバル』の成果を新たなつながりの場として、公園などの地域資源を活かした仕掛けや取組みにより、次世代の星崎のまちづくり構想が生まれることを検討していきたい。
- ◆ 気軽に集まり、若い人が活躍するまちをつくることで、地域が抱える少子化、高齢化による生活難民の解消を始め、近い将来に発生が危惧される南海トラフ地震やスーパー台風などに見舞われたとしても地域のつながりによって乗り越えられる持続可能なまちを目指す。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、4 ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。